



トラフグ日本海・東シナ海
・瀬戸内海系群
令和4年度資源評価結果

生物学的特性



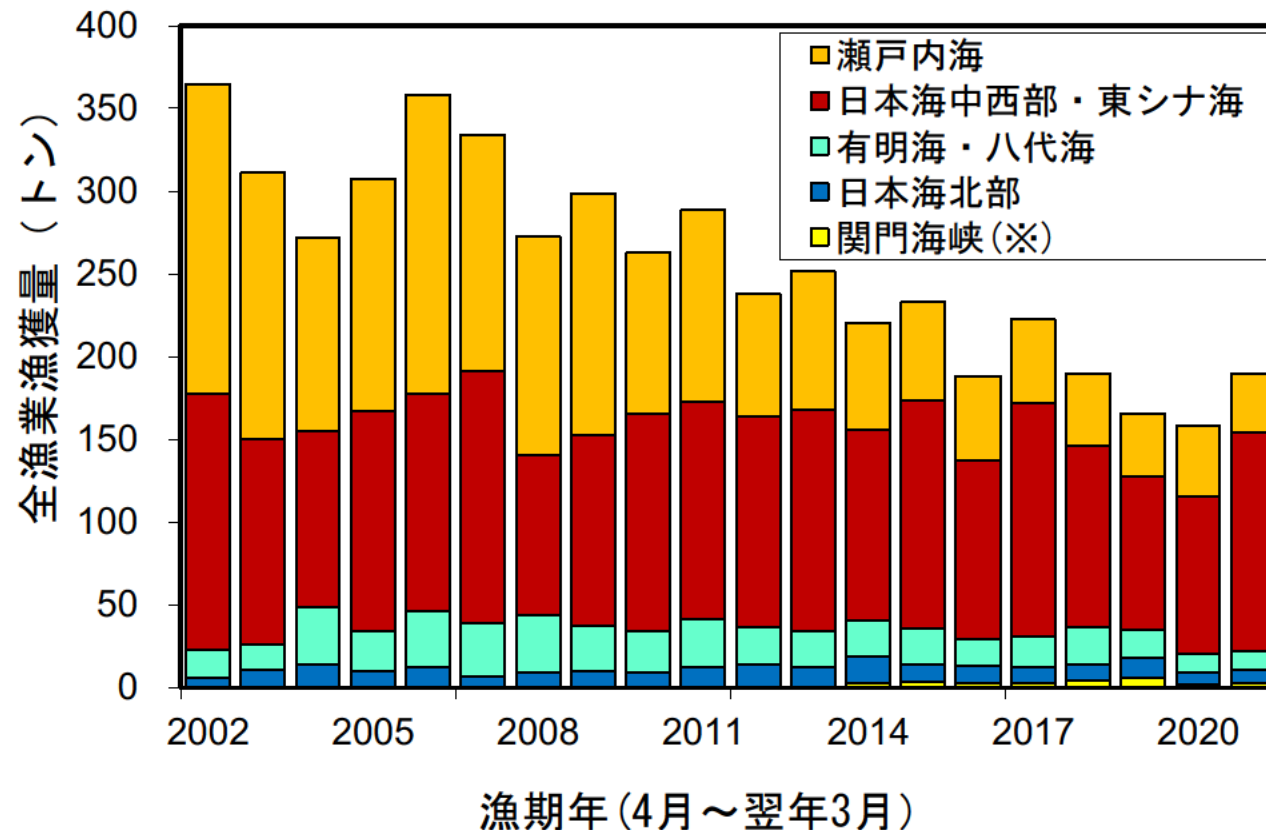
生物学的特性

- 寿命：10歳以上
- 成熟開始年齢：雄2歳、雌3歳
- 産卵期・産卵場：国内では八郎潟周辺、七尾湾、若狭湾、福岡湾、有明海、八代海、関門海峡周辺、布刈瀬戸、備讃瀬戸、など
- 食性：仔魚後期までは動物性プランクトン、稚魚は底生性の小型甲殻類、未成魚は魚類幼魚およびエビ・カニ類、成魚は魚類、エビ・カニ類

- 漁期は外海域では主に9月～翌年3月で全年齢が対象のほか、産卵親魚(3～6月)、当歳魚(7月以降)が主に内湾域、内海域で漁獲される

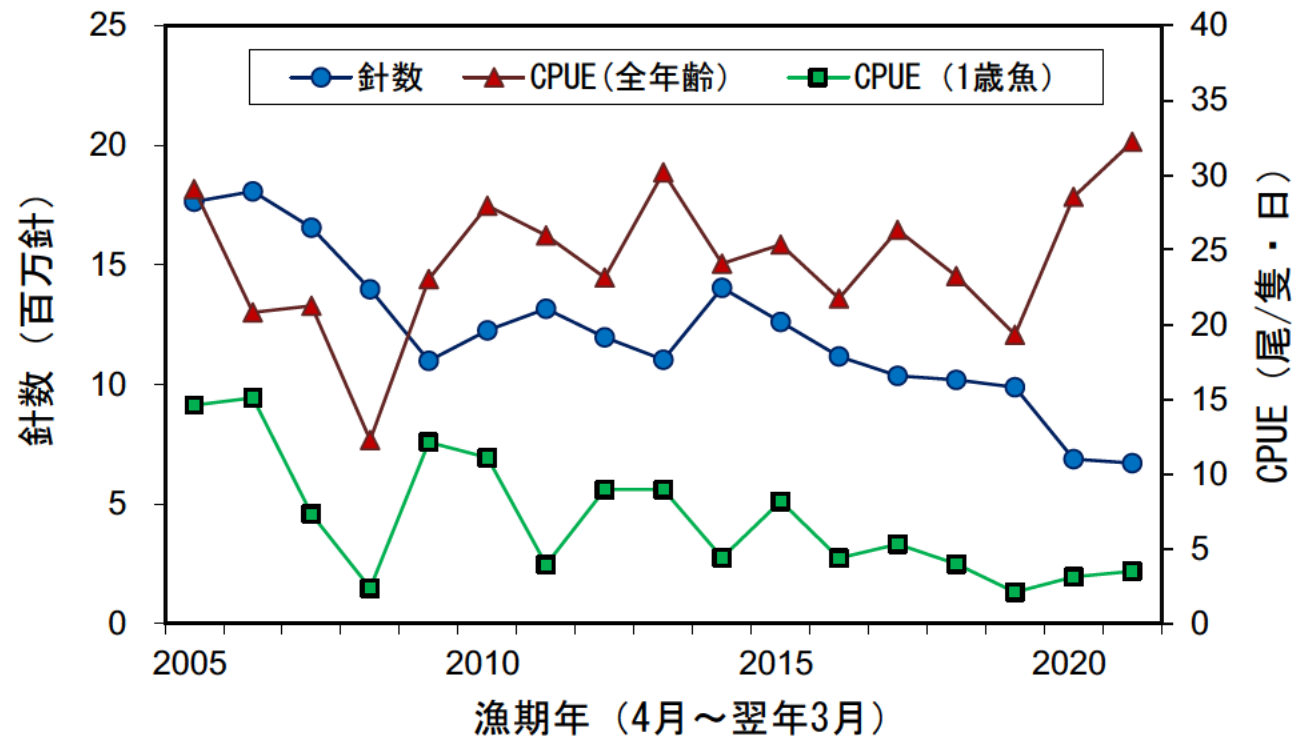
漁獲の動向①

3



- 2021年漁期（4月～翌年3月）の漁獲量：190トン（概数値）
（2020年漁期：158トン）
- 2021年漁期の海域別割合：日本海中西部・東シナ海が69%、瀬戸内海が19%、有明海・八代海が6%、日本海北部が4%、関門海峡（4月～7月）が1%
- 2021年の放流尾数150.7万尾、混入率29.5%、添加効率0.019

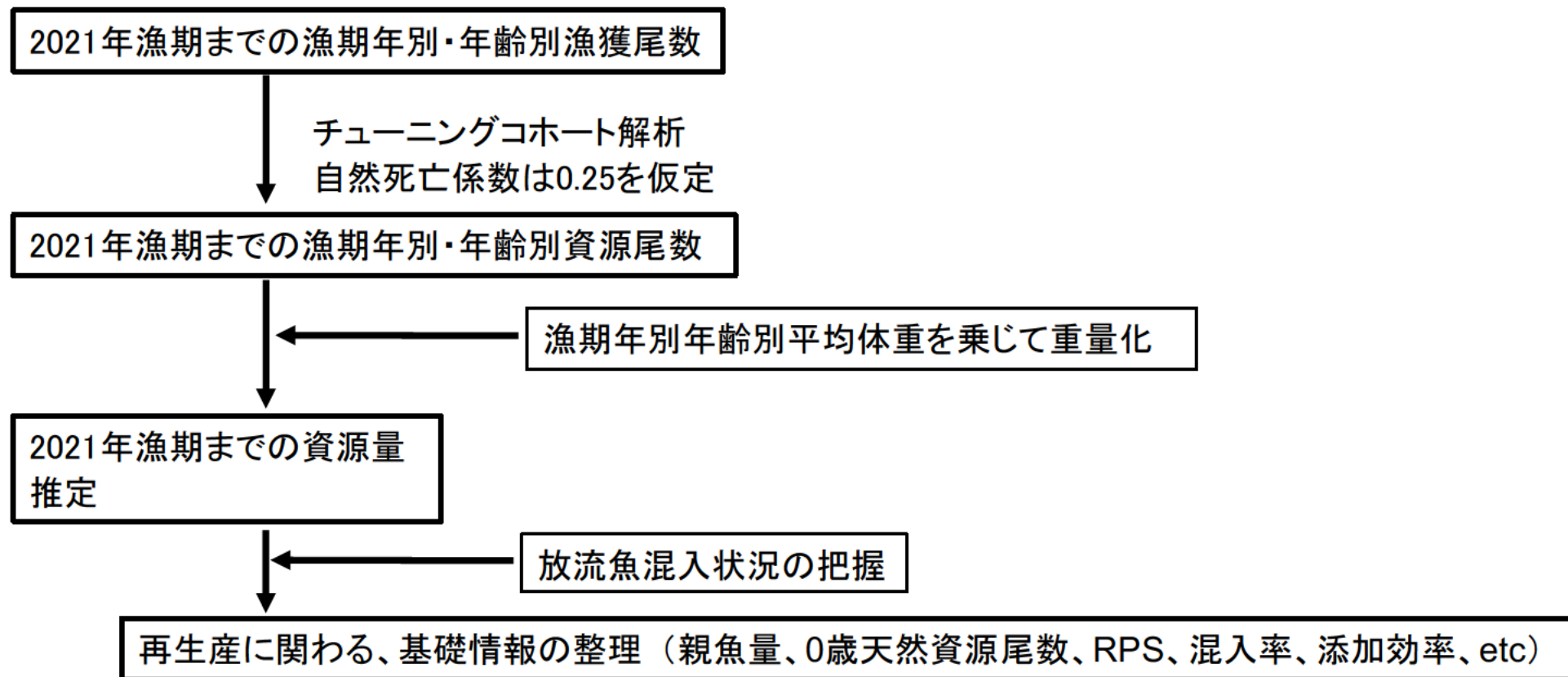
漁獲の動向②



- 主漁場である九州・山口北西海域における、2021年漁期のふぐはえ縄の努力量（針数）は、671万針と過去最少
- 一方、同海域の全年齢CPUE（船別集計に基づく加重CPUE）は、32尾/隻・日と過去最高
- ただし、1歳魚CPUEは資源評価期間を通じて低下傾向にあり、2021年漁期は3.5尾/隻・日と低位

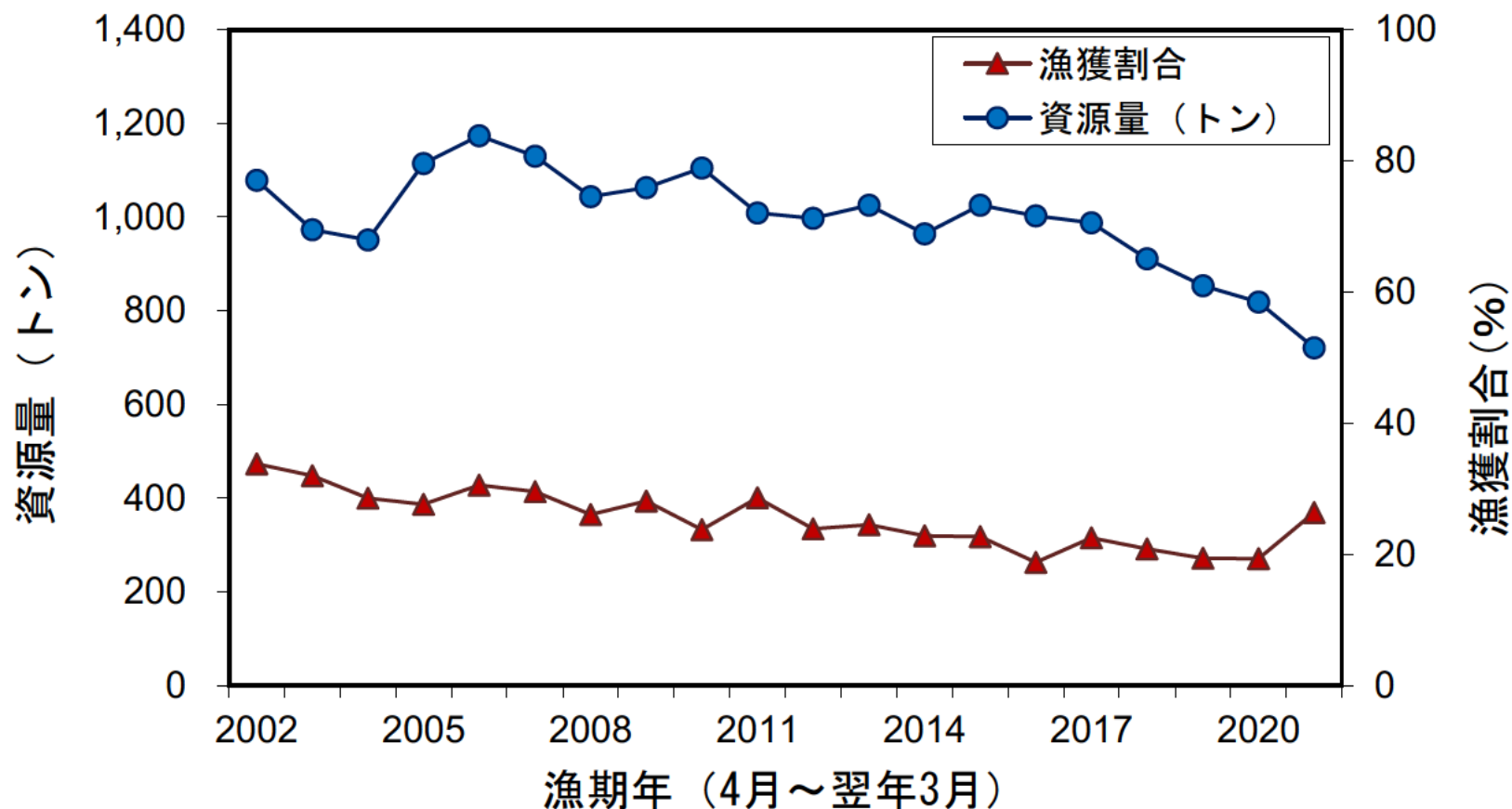
※針数：漁期中の総針数 ※CPUE：隻・日あたりの漁獲尾数

資源評価の流れ



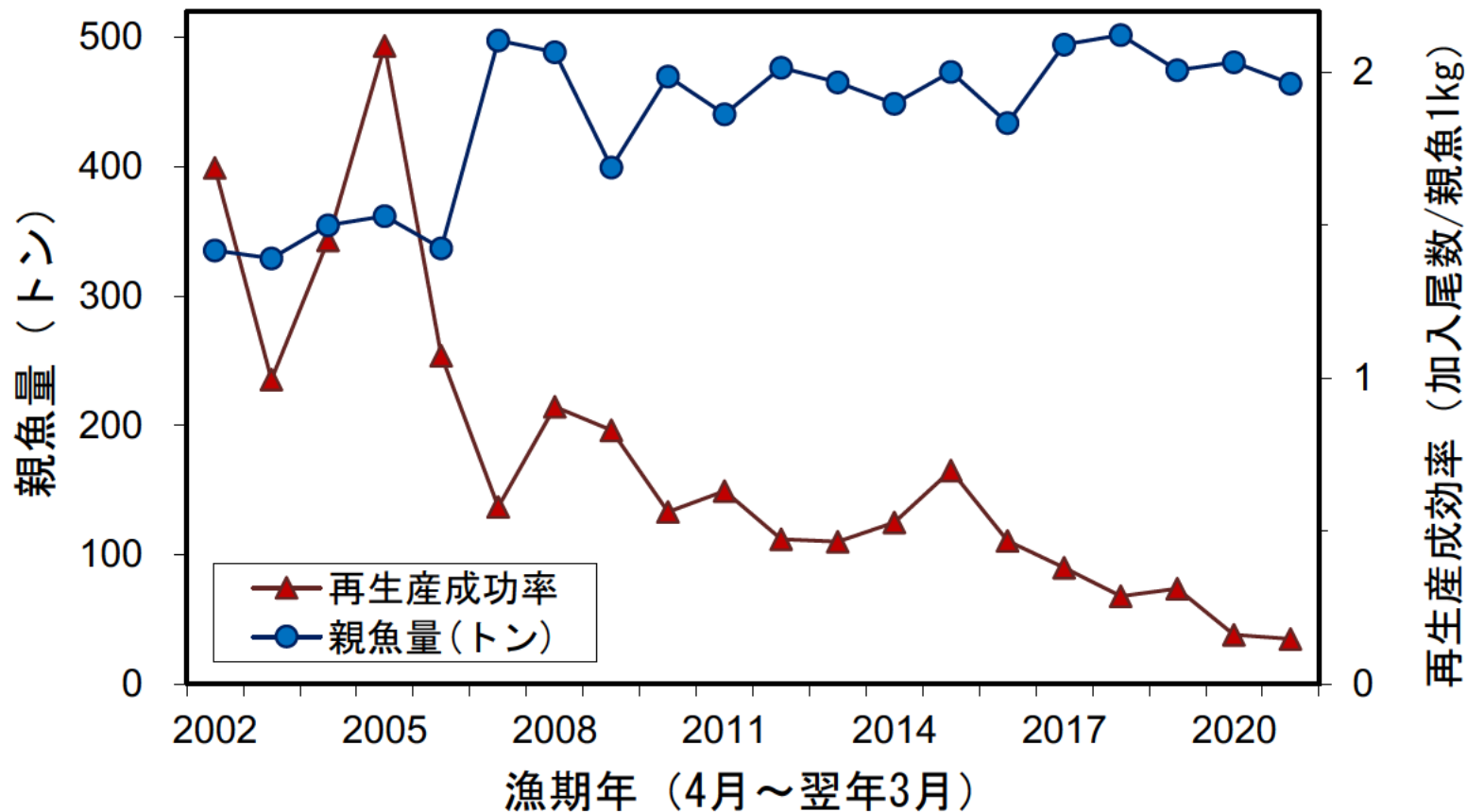
将来予測、管理に係る目標等基準値、資源の動向などについては
本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します

資源の動向①



- 資源量：2021年漁期は721トンであり、過去最少
- 漁獲割合：2021年漁期は26%であり、2012年漁期以降では最も高い

資源の動向②



- 親魚量：2021年漁期は464トン。過去最多の2018年漁期（502トン）以降は減少傾向
- 再生産成功率：2021年漁期は0.15尾/親魚1kgとなり、過去最小

資源評価のまとめ

- チューニングコホート解析による資源量推定を実施
- 2021年漁期の資源量は721トンと推定され、過去最少
- 親魚量は464トンと推定。2018年漁期以降減少傾向
- 再生産成功率は0.15尾/親魚1kgと過去最小値

将来予測、管理に係る目標等基準値、資源の動向などについては
本年度中に開催される研究機関会議資料に記述します